

スイス・バーゼル発、2013年2月6日

英文リリース日本語訳

## シンジェンタ 2012 年通年業績

引き続き好調な売上高および過去最高の利益

- 売上高は前年比 7%増（恒常為替レート [CER]<sup>1</sup> で前年比 10%増）の 142 億ドル
  - 北米およびラテンアメリカ地域では第 4 四半期堅調
  - いずれの地域でも種子部門で 2 桁の成長（CER）
- EBITDA は CER で前年比 17%増
- 純利益は前年比 17%増の 19 億ドル
- 1 株あたりの利益<sup>2</sup> は前年比 15%増の 22.30 ドル
- フリーキャッシュフローは過去最高水準を下回り 9 億ドル
- 予定配当は前年比 19%増の 9.50 スイスフラン

	報告されている財務概要			
	2012年 百万ドル	2011年 百万ドル	現地通貨 %	CER <sup>1</sup> %
売上高	14,202	13,268	+ 7	+ 10
営業利益	2,292	2,051	+ 12	
純利益 <sup>3</sup>	1,872	1,599	+ 17	
EBITDA	3,150	2,905	+ 8	+17
1株あたり利益 <sup>2</sup>	\$22.30	\$19.36	+ 15	

1 恒常為替レートでの伸び

2 リストラ費および減損を除く、完全希薄化ベースでの 1 株当たりの利益

3 シンジェンタ AG 株主への純利益（20.32 ドルの希釈 1 株あたり利益と同等）

最高経営責任者マイク・マックは次のように語っています。

2012年、複数の地域で悪天候の影響により作物価格が高騰、生産高不足の事態となり、世界的な供給の脆弱性が再び露呈しました。被害があった地域の生産者は、植え付けおよび投資の決断という点において迅速に状況に順応しなければならなかったと同時に、雑草や害虫の抵抗性といった目の前の課題にも取り組まなければなりませんでした。シンジェンタの売上高の堅調な伸びは、作物の枠を超えたソリューションの提供、さらには統合された提案を通じた農業課題への対応における柔軟性を反映したものとなりました。売上高は先進国で前年比 8%、新興国で前年比 11%の伸びとなっており、先進国でも新興国でもこうしたシンジェンタの柔軟性の価値が証明されています。

2年前に新しい戦略を発表して以降、シンジェンタは作物ごとのポートフォリオ拡大を進めています。結果はすでに達成されており、新しい統合的提案の将来性により、8つの戦略的作物で2020年までの目標売上高を250億ドルにまで設定することが可能となりました。さらに、昨年は多くの新しい技術を獲得するために多くの買収を行いました。これと同時に、予定配当の大幅な増額に表れている通り、堅調なバランスシートを維持しています。

## 2012年通年業績

### 売上高：142億ドル

売上高は恒常為替レート（CER）で前年比 10%増でした。販売量は前年比 7%増、価格は前年比 3%増となりました。多くの通貨に対するドル高により、報告されている売上高は前年比 7%増でした。

### EBITDA：32億ドル

CERでのEBITDAは前年比 17%増、EBITDA マージン（CER）は 23.2%でした（2011年は 21.9%）。利益性の増加は、販売量増加、価格上昇および DuPont Pioneer 社からの形質ライセンス収益 2億ドルによる経営レバレッジ、ならびに主に統合的なビジネスモデルによる 1億 9,800万ドルのコスト削減を反映しています。こうした利益の増加は、原料コスト高の影響および除草剤アトラジンに関連する米国での訴訟示談費用正味 8,000万ドルを相殺して余りある結果となりました。

報告されているマージンは 22.2%でした。通貨の悪影響は 2億 3,500万ドル、すなわち 100 ベース・ポイントでした。

### 正味金融費用および租税

正味金融費用 1億 4,700万ドルは 2011年（1億 6,500万ドル）をわずかに下回りました。リストラ費および減損を除く税率は 15%でした。

### 純利益：19億ドル

リストラ費および減損を含む純利益は前年比 17%増でした。リストラ費および減損を除く 1株あたり利益は、前年比 15%増の 22.30ドルでした。

### キャッシュフローおよびバランスシート

買収を除くフリーキャッシュフローは総額 9億 2,400万ドルでした。平均取引流動資産は売上の割合にして、2011年の 37%から 35%に低下しました。無形資産を含む固定資産支出は 6億 7,900万ドル（2011年：5億 7,500万ドル）で、主に新興市場での高まりつつある需要を満たすための投資増加を反映しています。新技術の獲得および種子生産能力拡大の機会となった買収の費用は、6億 5,400万ドルに達しました。投資に対するキャッシュフローリターンは 15%となり、やはり目標の 12%を上回りました。資本に対する負債総額の比率は 20%でした（2011年：15%）。

### 配当金および株式の買い戻し

2012年の株主に対するキャッシュリターンは総額 7億 9,500万ドルでした。配当金は前年比

14%増（米ドルでは 13%増）となり、配当金支払総額は 7 億 9,100 万ドルとなりました。株式買い戻しは 400 万ドルに達しました。配当金を主要な焦点とし、また 2012 年には買収費用が多額となりました。

引き続きフリーキャッシュフローの創出が堅調であることから、2013 年 4 月 23 日に開催される年次総会において、取締役会は配当金の増額（1 株当たり 2011 年の 8.00 スイスフランから 9.50 スイスフランへ）を提案する予定です。これは 2013 年 1 月末時点の為替レートにて、スイスフランベースで 19%、米ドルベースで 21%の増額です。昨年と同様、戦術的な株式の買い戻しを実施する柔軟性を維持しています。

## 2012 年ビジネスハイライト

	通年				第 4 四半期			
	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %
ヨーロッパ、アフリカ、 中東地域	3,974	3,982	-	+ 6	387	414	- 7	- 3
北米地域	3,931	3,273	+ 20	+ 21	690	538	+ 28	+ 28
ラテンアメリカ地域	3,713	3,305	+ 12	+ 13	1,556	1,324	+ 18	+ 17
アジア太平洋地域	1,827	1,887	- 3	-	432	443	- 3	- 1
<b>地域別合計</b>	<b>13,445</b>	<b>12,447</b>	<b>+ 8</b>	<b>+ 11</b>	<b>3,065</b>	<b>2,719</b>	<b>+ 13</b>	<b>+ 13</b>
ローン アンド ガーデン <sup>(1)</sup>	757	821	- 8	- 6	174	184	- 6	- 5
<b>シンジェンタグループ合計</b>	<b>14,202</b>	<b>13,268</b>	<b>+ 7</b>	<b>+ 10</b>	<b>3,239</b>	<b>2,903</b>	<b>+ 12</b>	<b>+ 12</b>

## 地域別販売実績

- ・ 売上高：134 億ドル（前年比 11%増<sup>(2)</sup>）
- ・ 販売量：前年比 8%増、価格：前年比 3%増
- ・ EBITDA：30 億ドル（2011 年：28 億ドル）
- ・ EBITDA マージン<sup>(2)</sup>：23.8%（2011 年：22.5%）

**ヨーロッパ、アフリカ、中東地域**：成長は広範囲に渡っており、CIS およびヨーロッパ南東部では、コマーシャル組織の統合がシンジェンタのポートフォリオの規模および顧客認識において明らかな利益となっており、こうした地域での成長に最も大きく関わっています。冬作穀物の代用としてのトウモロコシおよびヒマワリにより種子売上がさらに伸びました。フランスも、殺菌剤分野での成長により、堅調な通年業績を示しました。ヨーロッパ南部での売上高は、乾燥した天候および景気の低迷により、前年を下回りました。

(1) ディスインベストメントの影響を含む

(2) 恒常為替レート

**北米**：ビジネスが非常に好調な 1 年でした。トウモロコシ技術の拡大は、ライセンス収益によりその基礎となる種子売上が好調な結果となりました。暖冬および植え付け時期が早まったことが除草剤および殺虫剤の使用に有利に働き、雑草および害虫の抵抗性管理プログラムが引き続き成功していることでさらに勢いが増しました。これは、夏の干ばつによる第 3 四半期での殺菌剤散布の減少を相殺して余りあるものでした。少ない流通在庫および 2013 年以前からの強

い需要が、第4四半期における成長の加速につながりました。

**ラテンアメリカ地域**：第1四半期における売上高を減少させた干ばつ状態からの力強い回復が見られました。大豆価格の上昇は、作付面積および投資の増加を促しました。第2シーズン用トウモロコシの開発は、農薬および種子の技術導入に有利に働いています。ブラジルにおけるコマーシャル組織の早期統合による牽引は、トウモロコシならびに大豆のシェア拡大とともに、シンジェンタの種子ポートフォリオの拡大に対する刺激となっています。サトウキビの生産高増加の必要性は、除草剤売上高の堅調な伸び、および種苗や苗木における新たな機会の特定に反映されました。

**アジア太平洋地域**：製品の合理化および登録の影響を除いた売上高は前年比5%増でした。中国および東南アジアはいずれも、トウモロコシの伸びおよび殺虫剤 **DURIVO®**の発表に伴い、二桁成長が報告されました。南アジアにおける成長は、異常なモンスーンおよび日本の売上高にも影響を及ぼした製品の段階的撤退により、さらに緩やかでした。オーストラリアでの売上高は、2013年初めの洪水および2013年後半の異常な高温乾燥状態のため、前年を下回りました。

#### ローンアンドガーデン

- 売上高：7億5,700万ドル（前年比6%減<sup>(1)</sup>）
- EBIDTA：1億300万ドル（2011年：1億300万ドル）
- EBITDA マージン<sup>(1)</sup>：13.9%（2011年12.5%）

買収およびディスインベストメントの影響を除き、売上高はほぼ横ばいでした。消費支出の低迷および小売業者の慎重な行動は引き続き多くの市場に影響を与えた一方で、ビジネスを単純化させ、価値の高い化学品および遺伝資源に焦点をあてることにおいて、シンジェンタは大きな進歩を遂げました。これには、6月に **Sun Gro Horticulture Canada** 社に売却した **Fafard** 社の培地など、マージンの少ない事業のディスインベストメントが含まれます。**Sun Gro Horticulture Canada** 社とは、シンジェンタの統合的提案に培地を含めるために引き続き協力していきます。11月には、**Griffin Greenhouse Supplies** 社が **Syngenta Horticultural Services** の花卉の流通および仲介事業を買収する予定であることを発表しました。**DuPont** 社のプロフェッショナルプロダクツである殺虫剤事業買収は、すでにその地位が確立されている **Advion®**および **Acelepryn®**を手に入れることにより、化学的防除のポートフォリオを拡大させます。

#### 生産能力の拡大

シンジェンタはアルゼンチンにおいてトウモロコシおよびヒマワリの種子の新しい処理工場建設に5,000万ドルを投資すると発表しました。ブラジルでは、**Formosa** トウモロコシの処理工場の生産能力を4倍にする計画です。また、ロシア・クラスノダール地方でのハイブリッド種子および農薬関連施設の建設に最大8,500万ドルを投資するという同意書に署名しました。

(1) 恒常為替レート

## 買収

DuPont 社のプロフェッショナルプロダクツ事業（ローン アンド ガーデン参照）を 1 億 2,500 万ドルで買収・合併しました（2012 年 10 月から効力を有する）。

9 月、シンジェンタは Pasteuria Bioscience 社に対し、延べ払い 2,700 万ドルを含む 8,600 万ドルを支払うことで合意しました。自然に存在する土壌中のバクテリアである Pasteuria spp を使用して、新しい作用機序を有する費用効率の高い殺線虫剤を開発します。

11 月、シンジェンタはベルギーの Devgen 社株 4 億 300 万ユーロの公開買付を開始しました。Devgen 社は、ハイブリッド米と RNAi 技術の分野で世界をリードする企業です。2013 年 1 月 18 日までに、Devgen 社の株式総数の 98.32% を買い付けました。残りはスクウィーズ・アウトにより獲得します。この買収は 2012 年 12 月から効力を有しています。この買収により、世界のコメ市場におけるシンジェンタの主導的地位を強化し、RNAi 技術の作物への応用とシンジェンタの広範な農薬製品ポートフォリオを組み合わせることが可能となります。

また 11 月には、米国に本拠地をおく、ヒマワリ種子の生産および処理を行う Sunfield Seeds 社の買収を発表しました。この買収により、今後の成長サポートにおいてシンジェンタのヒマワリ供給能力を強化し、今後の成長をサポートします。

**新しいパートナーシップ：**シンジェンタと Novozymes 社は、2012 年、2 つの世界規模の合意書に署名しました。1 つ目は、両社が共同で、Novozymes 社の技術である土壌中でのリン酸取り込みを増強させる種子用生物製剤 JumpStart® を商品化するという合意です。2 つ目は、少ない散布量で様々な病気をコントロールすることが可能である発酵殺菌剤である Taegro® のマーケティングと流通に関する合意です。

Intergrain 社とのオオムギ育種合意では、シンジェンタはすべての新しいオオムギ種を独占的に販売する権利、および既存の Intergrain 社製品をオーストラリア以外で独占的に販売する権利を獲得しました。

**クロップパイプライン：**9 月、シンジェンタは 8 つの主要作物の売上目標を引き上げ、2020 年までに 250 億ドルと設定しました。これは、以前の売上目標である 2015 年以降までで 220 億ドル超という目標に匹敵します。この目標の上方修正に続き、4 つの作物、シリアル、トウモロコシ、イネおよび野菜に関する戦略的更新を行いました。売上目標は、統合的提案がますます強調されるようになってきていることから、既存のポートフォリオの伸びと新製品の上市を考慮して設定されたものです。

**業績指標：**ポートフォリオの業績および統合的提案の開発により、2012 年にはさらにマーケットシェアを獲得することができました。これは、今後 5 年で、統合された事業を通じて年平均 0.5% のマーケットシェアを獲得するという目標を達成することへの自信につながっています。2012 年には、グループ EBIDTA マージンは 22.2% で、2015 年の目標である 22~24% の範囲内でした。この達成の背景には、通貨および原料の逆風、ならびに成長への継続的な投資があります。投資に対するキャッシュフローリターンは 15% で、12% 超という目標を大きく上回っています。こうした結果は、予定配当の増額および株主へのキャッシュリターンというシンジェンタの戦略に反映されています。

## 展望

**最高経営責任者マイク・マックは次のように語っています。**

今後におけるシンジェンタの自信は、特に北米およびラテンアメリカ地域における第 4 四半期の好調な事業、ならびに堅調な商品穀物価格が、シンジェンタの今後に対するさらなる自信につながっています。2013 年は、革新的な提案、およびすべての分野で今や完全に統合されたコマーシャル組織により牽引されるさらなる事業の勢いに期待しています。また、クロップパイプラインの実現および特に新興市場における商業的足跡を引き続き拡大することへの投資を継続する一方、多額のフリーキャッシュフロー創出も可能であると予測しています。

## 農薬

	通年		成長		第4四半期		成長	
	2012	2011	現地	CER	2012	2011	現地	CER
農薬 製品群別売上	百万 ドル	百万 ドル	通貨 %	%	百万 ドル	百万 ドル	通貨 %	%
選択性除草剤	2,939	2,617	+12	+15	589	417	+41	+42
非選択性除草剤	1,246	1,117	+12	+14	298	231	+29	+29
殺菌剤	3,044	2,998	+2	+4	758	704	+8	+8
殺虫剤	1,841	1,790	+3	+6	513	496	+4	+4
種子処理剤	1,107	1,018	+9	+12	320	332	-3	-3
その他の農薬	141	137	+2	+5	36	39	-10	-10
合計	10,318	9,677	+7	+9	2,514	2,219	+13	+14

**選択性除草剤**：主要ブランド－AXIAL®、CALLISTO® シリーズ、デュアール®/BICEP® MAGNUM、FUSILADE®MAX、TOPIK®

シリアル用 AXIAL®はすべての地域で二桁の伸びを記録しました。最も好調だったのは、作付面積が増加したとともに年度当初での流通在庫が少なかったカナダです。トウモロコシでは、CALLISTO®シリーズおよびデュアール®/BICEP®が、耐性を獲得した雑草管理の成功およびトウモロコシの高価格により米国で堅調な伸びを記録しました。ブラジルでは両製品が統合された栽培プロトコールの一部となっており、サトウキビへの両製品の導入が急速に加速しています。

**非選択性除草剤**：主要ブランド－グラモキソン®、タッチダウン®

グラモキソン®は、抵抗性雑草の分野でグリホサートの代用として使用されたラテンアメリカ地域および米国で好調な伸びを示しました。アジア太平洋地域の先進国市場における売上高は前年を下回りましたが、これは韓国で登録を更新しなかったことが原因の1つでした。タッチダウン®の売上高はアメリカ大陸で特に堅調な伸びを示しました。これはトウモロコシと大豆の需要が高いこととジェネリック品の供給量の不足を反映しています。

**殺菌剤**：主要ブランド－ALTO®、アミスター®、BRAVO®、レーバス®、リドミルゴールド®、スコア®、チルト®、ユニックス®

第1四半期のラテンアメリカ地域における干ばつ、また夏を通じた米国における干ばつにもかかわらず、殺菌剤の売上高は伸びを示しました。最も主要な製品であるアミスター®の売上高は引き続き拡大しています。作物および地域ごとに複数の混合剤および剤形を採用するというシンジェンタの提案、および堅調な価格設定により、販売量の伸びが牽引されました。野菜、ブドウ、およびジャガイモ用のレーバス®の売上高は、主要マーケットであるヨーロッパで25%増でした。11月には、欧州連合から isopyrazam の全面的承認を取得しました。これは、様々な種類の有害な真菌病の防除において大きな進歩となるでしょう。

**殺虫剤**：主要ブランド－アクタラ®、ジュリボ®、フォース®、KARATE®、PROCLAIM®、VERTIMEC®

製品合理化の影響を除き、売上高はアメリカ大陸で10%増でした。米国では、トウモロコシ地帯での暖冬および乾燥した気候により、早い時期に大量の害虫が発生しました。さらに、根切

虫の抵抗性および土壌をベースとした殺虫剤のメリットに対する生産者の認識が高まり、結果としてフォース®の北米での売上高は倍以上の伸びを示しました。ラテンアメリカ地域の成長は、アクタラ®とジュリボ®の貢献が最も大きく、こうした技術の導入により牽引されました。

**種子処理剤：** 主要ブランド—AVICTA®、クルーザー®、DIVIDEND®、CELEST/MAXIM®、VIBRANCE™

クルーザー®および CELEST/MAXIM®で世界的な成長がみられました。継続的な技術導入は、売上高が 20%以上増加した新興市場において特に堅調な業績を牽引しました。ラテンアメリカ地域では、殺線虫剤の AVICTA® も堅調な伸びを示しました。根の健康を高め、様々な病気を防除する新しい化合物である VIBRANCE™が、北米で成功裡に上市されました。

農薬 地域別売上	通年		成長		第4四半期		成長	
	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %
ヨーロッパ、アフリカ、 中東	2,910	2,958	-2	+5	325	354	-8	-5
北米	2,577	2,158	+19	+20	422	286	+47	+47
ラテンアメリカ	3,261	2,907	+12	+13	1,411	1,208	+17	+17
アジア太平洋	1,570	1,654	-5	-2	356	371	-4	-3
合計	10,318	9,677	+7	+9	2,514	2,219	+13	+14

## 種子

種子 製品群別売上	通年		成長		第4四半期		成長	
	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %
トウモロコシ、大豆	1,836	1,471	+25	+26	386	334	+15	+15
畑作物	719	676	+6	+11	66	77	-14	-12
野菜	682	703	-3	+1	148	131	+14	+15
合計	3,237	2,850	+14	+16	600	542	+11	+11

**トウモロコシおよび大豆：** 主要ブランド—AGRISURE®、GARST®、GOLDEN HARVEST®、NK®

世界でのトウモロコシおよびラテンアメリカ地域での大豆の牽引により、すべての地域で売上高は堅調に増加しました。北米での売上高は、上半期に得られたトウモロコシの形質ライセンス収益約 2 億ドルにより増強されました。これを除くと、世界のトウモロコシ売上高は、シンジェンタの広範な技術提供に対する顧客の肯定的な反応もあり、15%増加しました。ラテンアメリカ地域では、トウモロコシの伸びはブラジルの第 2 シーズンの拡大により牽引され、ブラジルでは新しい形質交配種の上市により売上高は 30%以上増加しました。2012/2013 年の大豆作付面積の増加は、V-Max などシンジェンタの主要な品種に対する強い需要によるものでした。PLENUS®という統合的提案は、アルゼンチンでポートフォリオの約 4 分の 3 を占め、順調に伸びています。

畑作物：主要ブランド-NK® ナタネ、HILLESÖG®テンサイ

主要な従来品種および高オレイン酸ハイブリッド種の拡大にから価値を得ている東ヨーロッパで、ヒマワリが成長を牽引しました。北米では、ヒマワリおよびシリアル成長がソルガム事業売却を相殺する以上の結果となりました。ハイブリッド大麦は、既存の小麦事業における成長と併せて、西ヨーロッパの主要国で力を発揮し始めています。

野菜：主要ブランド-DULCINEA®、ROGERS®、S&G®

第4四半期には上向き、2013年初頭の景気低迷の影響が相殺されました。北米では、加工市場が過剰供給の時期から回復し、生鮮農産物の売上は小玉スイカに対する強い需要により恩恵を受けています。メキシコおよびイベリアでは、Zeraim社の主要製品であるトマトおよびペッパーが売上を牽引しています。

種子 地域別売上	通年		成長		第4四半期		成長	
	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %	2012 百万 ドル	2011 百万 ドル	現地 通貨 %	CER %
ヨーロッパ、アフリカ、 中東	1,101	1,063	+4	+10	83	86	-3	-1
北米	1,398	1,142	+22	+22	292	266	+10	+9
ラテンアメリカ	479	409	+17	+18	148	118	+26	+26
アジア太平洋	259	236	+10	+16	77	72	+6	+9
合計	3,237	2,850	+14	+16	600	542	+11	+11

## 業績発表ならびに年次株主総会

2012年次報告書の発行	2013年3月13日
2013年第1四半期業績発表	2013年4月18日
年次株主総会	2013年4月23日
クロップアップデート	2013年7月9-11日
2013年上半期業績発表	2013年7月24日
2012年第3四半期業績発表	2013年10月17日
クロップアップデート	2013年12月4-6日

シンジェンタは、“植物のちからを暮らしのなかに”を企業目的として世界90カ国以上で事業を展開し、2万7,000人超の社員を擁する世界のリーディングカンパニーの一つです。ワールドクラスの科学、グローバルな事業活動とお客様へコミットメントを通じて、作物の生産性向上、環境の保護および健康と生活の質の向上をサポートしています。さらに詳しい情報は、インターネット [www.syngenta.com](http://www.syngenta.com)（英語）または、[www.syngenta.co.jp](http://www.syngenta.co.jp)（日本語）をご覧ください。

### 将来の見通しに関する記述についての注意事項

本リリースには、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、「見込まれています」、「でしょう」、「の予定です」、「潜在的な」、「計画」、「展望」、「推定」、「目的」、「目標」またはその他これに類似した表現により特定されます。そのような将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受けるため、実際の結果と異なる可能性があります。そのようなまたはその他のリスクと不確定性については、シンジェンタが米国証券取引審議会に提出した入手可能な書類をご参照ください。シンジェンタは、実績、前提条件の変化などの要因を反映するための将来の見通しに関するいかなる記述もそれを更新する義務を一切負わないものとします。本リリースの全体または一部は、シンジェンタ AG の普通株またはシンジェンタ ADS の売却もしくは発行を申し出るか、勧誘するものではなく、それらの購入または申込の申し出を勧誘するものでもありません。また、それらの目的のために締結される契約に関してその根拠または拠り所となるものではありません。